

## 令和7年度四万十町教育研究所 第2回運営委員会会議録(要旨)

- 1 日時 令和7年3月9日(月) 15:30~17:00
- 2 場所 四万十町農村環境改善センター 第1会議室
3. 出席者  
運営委員 稲田 充宏(欠) 月原 賢司 竹内 浩一(欠) 平野 信人  
宮崎 卓也(欠) 田村 皓哉(欠) 石崎 豊史 戸田 晶秀  
事務局 谷口 和史(教育長職務代理者) 川上 武史(教育次長)  
野村 泰子(所長) 西澤 尚輝(研究員) 齋藤 マサ(SSW)  
北村 仁実(SSW) 西田 香利(発達教育支援員)  
榊山 雅子(支援センター指導員) 藤原 克彦(支援センター指導員)
- 4 傍聴者 0名
- 5 日程
  - (1) 教育長職務代理者挨拶
  - (2) 事業報告
  - (3) 協議
    - ① 令和7年度の教育研究所活動内容について
    - ② 令和8年度に向けて
    - ③ その他
- 6 事業報告
  - (1) 教育研究活動(研究員の調査研究テーマ)  
事務局より 資料(事業報告案) P1~P2 及びパワーポイントにて説明
  - (2) 学校研究支援
    - ① Q-U・hyper-QUの取り組み
    - ② 「いのちの学習」の取り組み
    - ③ 校内研修支援  
事務局より
  - (3) 教育支援センターの運営  
事務局より
  - (4) 教育相談活動(S S W・発達教育支援員)  
事務局より
  - (5) 研究協力校の取り組み  
事務局より

(6) 副読本「わたしたちのまち 四万十町」部分改訂

事務局より

(7) 四万十教科書センターの運営

事務局より

(8) その他の取り組み

①研修会

②所内会・全体会

③教育研究所便り「しまんと」

④えんぴつの持ち方教室

事務局より

## 7 協議

(1) 令和7年度の教育研究所事業報告について【質疑】

戸田委員 : プログラミング学習の授業イメージがわからないので動画等を見せてもらえないか

事務局西澤 : 動画の用意をしていないので、授業中に使ったワークシートやプログラミングの画面を共有させていただく。

戸田委員 : 教科の学びにも反映させていくことが重要ではないか。

事務局西澤 : 総合的な学習や算数などでの学習に応用できると考えている。ただ、現在その教材を開発しているわけではないので、今後の研究の1つの視点として参考させていただく。

谷口教育長

職務代理者 : プログラミング学習は、人によって学習の進度に差が生まれすぎないか。

事務局西澤 : ミッション毎に活動を区切り、全体で確認をする時間を取ることで、子どもたち同士の学び合いを促すことで差が生まれにくい状態にしている。

谷口教育長

職務代理者 : デジタルだけではなく、言葉による表現をすることが重要ではないか。

野村所長 : このプログラミング教材だけで全てが叶うわけではないが、あくまでその一歩としての教材として捉えていただきたい。

月原副委員長 : 先進校の事例を見ても、こういった学習がこれまでの教育と全く違うことをしているというわけではないと感じる。子どもたち同士が教え合ったりする中で言語のやり取りができていると思う。

石崎委員 : \*個人に関する質問のため掲載はしない。

戸田委員 : 行政も一緒に動いて学校に通わせなくてもよいと考えている保護者に対して、学校、研究所、行政が一体となって今まで以上に働きかけていただきたいと思っている。

川上次長 : 分かりました。

野村所長 : 地域による差も大きいと感じている。先生からの要望があり、行政と一体となった会議をもったこともあった。しかし、保護者の考え方を変えることが非常に困難だ

った。学校現場が疲弊しないように話を聞いて支援していきたい。

戸田委員 : 支援センターは学校関係者や児童生徒からどのような場だと認識をされているのか。

事務局榊山 : 困った時に気軽に相談ができるような場でありたいと考えている。だが、居心地がよい場所というだけではなく、ステップアップができる場でありたい。

野村所長 : 教育関係者にも支援センターの役割や意義について周知を続けていくことが必要だと感じる。

月原副委員長 : 学校としても全教員が共通のイメージを持てるようにしていきたい。

月原副委員長 : 以上でよろしいか。

(閉会)